仁雄会　穂高病院
医療安全活動の取り組み

2023年第1回医療安全講習会のテーマは『救急カート』についてでした。

多職種で構成される医療現場でそもそも『救急カート』って？・・という観点から全職員を対象に当院の麻酔科医より講習会を行いました。

院外

＝

院内

心肺蘇生のアルゴリズムでは屋外で倒れている人を見つけたらまずとる行動として、人を集める、救急車を呼ぶ、AEDを持ってくるの３点が推奨されます。
では院内で人が倒れていたら何をするでしょう？人を集める、救急カートを持ってくる、除細動器を持ってくるの３点が重要です。
つまり救急カートは救急車を呼ぶことに匹敵するほど大切です。

院内に設置されている救急カートの位置を確認しよう！自分に一番近い場所にあるカートは！！

1番にすべきは大声で人を集める！

続いて　「サルも聴診器」
サ：酸素投与
ル：ルート確保
も：モニター装着
ちょう：超音波
しん：心電図
き：胸部レントゲン

滅多に出番がない救急カート！いざという時のために定期的な点検が大切

穂高病院
医療安全管理者田中和代

医療安全活動の取り組み紹介　**昭和伊南総合病院**

◇院内事例から　酸素ボンベ残量確認していますか？

事例：転院搬送のため、酸素10㍑/分で病棟から出発。ところが院内移動中に患者の状態が悪化、酸素ボンベが空になっていることに気づきました。まもなく搬送車に収容でき患者の容態は落ち着きましたが、危険な状態になるところでした。搬送前に検査のため出棟した時も同じ酸素ボンベを使用していたため、残量が不足していたのです。
酸素は日常的に頻繁に使用していますが、病棟では高流量で継続することはあまり経験なく、残量に注意が向かなかったようです。

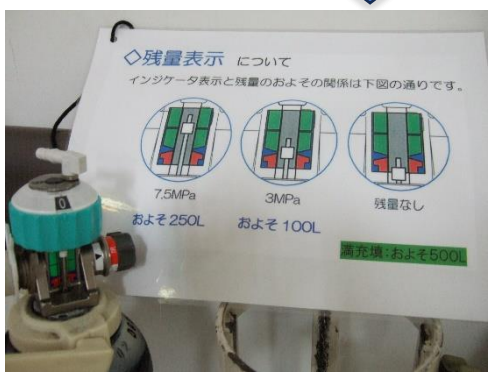
上記事例を受け、ラウンドでボンベの容量について質問しましたが、ほぼ認識されていませんでした。そこで臨床工学技士作成のポスターを酸素ボンベ置き場に設置しました。当院はインジケーター表示ですので視覚的に判断ができます。おおよその残量を併記しました。

使用前に酸素ボンベの残量を確認しよう
ラウンドチェックで評価します

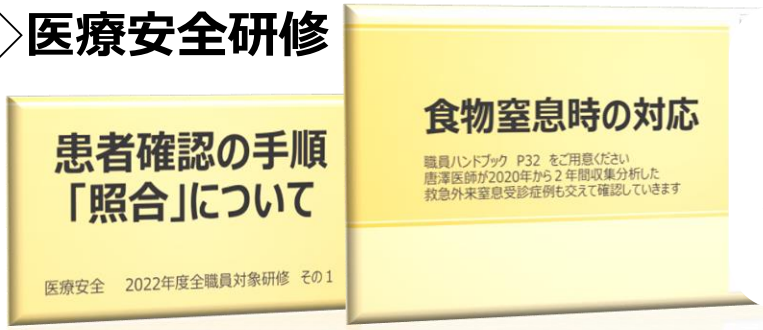
えっと、満タンの半分だから、250ℓ位ですか。

残量の目安は覚えた？
これはどのくらいかな？

正解！さすが、新人さんは基本を押さえているね。頼もしい。



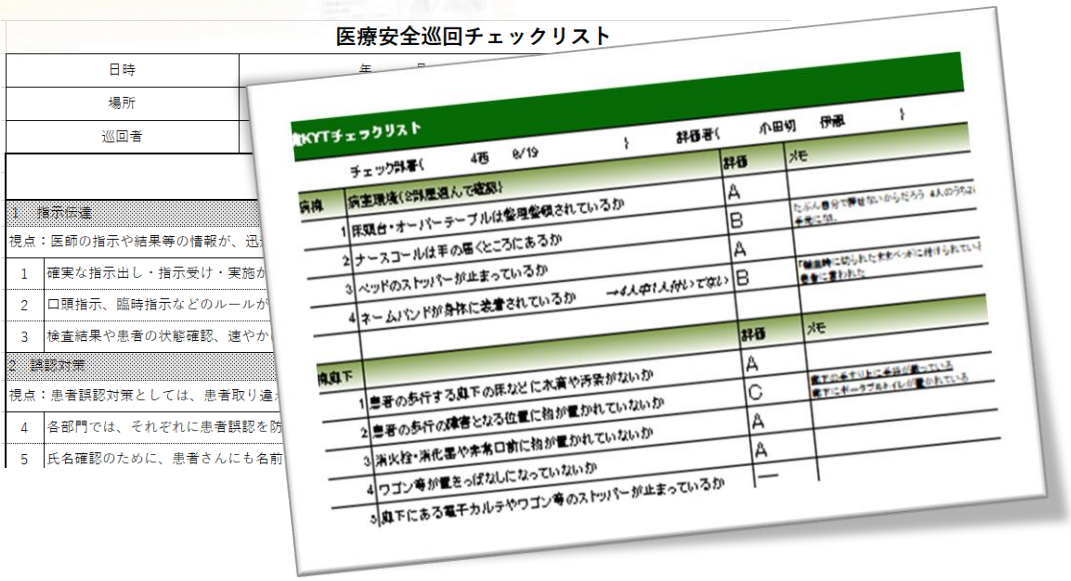
◇医療安全研修



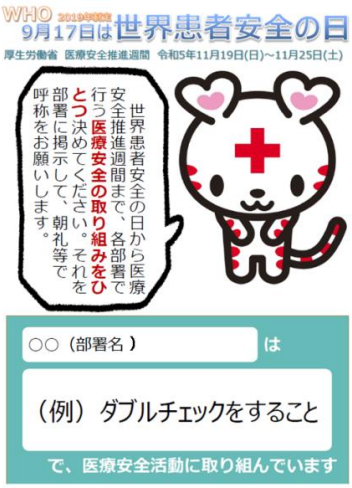
昨年度は、左記のような患者確認、食物窒息時の対応について、職員全体の研修を院内イントラネット内のシステムで実施しました。今年度は病院の取り組みとして強化中の「ハラスメント対策」について実施をしたところです。外部コンテンツを使ったり、自前の資料を作成したりして、効果的な研修となるように試行錯誤しています。

◇医療安全ラウンド

医療安全ラウンドは、チェックリストを作成し、行っています。
多職種ラウンドは不定期開催となっており、今後は定期開催の仕組みつくりが課題です。



医療安全活動の取り組み紹介



掲示するフリップは２種類から選択していただきます。

諏訪赤十字病院

医療安全週間

今年度は各部署の取り組みテーマをフリップにして期間中の呼称等に活用していただくこととにしました。期間中、医療安全川柳を院内・外から募っています。昨年は205作品の応募をいただきました。入賞作品にイラストをつけてカレンダーを作成しています。

リスクラウンド、3D・認知症ケアチームラウンド

病棟では患者さんの療養環境が安全で過ごしやすくなっているかラウンドをしています。3D・認知症ケアチームのラウンドでは使用薬剤や療養環境などアドバイスをいただき、連携をしています。複数回転倒事例は多職種カンファレンスを実施します。この取り組みが転倒転落発生率の低減に貢献しています。

医療安全研修

部署のセーフティマネージャーを中心としてImSAFERを用いた事例分析手法研修をしています。事前にe-ラーニングで自己学習して、集合研修で事象関連図を作成する2段階の研修となっています。医療技術職、看護師、事務職、研修医に参加していただいています。多職種で実施することで職種による見方、考え方の違いに気付くことが出来ます。

2023年10月　諏訪赤十字病院　医療安全推進室　西澤

長野県立こころの医療センター駒ケ根　医療安全活動の取り組み

医療安全の取り組み

当院では、基本理念の一つに「私たちは、医療安全を推進し、人にやさしい病院を目指します。」を掲げ取り組んでいます。

無断離院シミュレーション研修

精神科では病院から無断で外出した場合、自殺企図や、認知症の方が自身の安全を守ることができないなどの恐れがあり、速やかに対応する必要があります。

無断離院が発生したと認識したら、10分以内に専任リスクマネジャーへ報告し、院長、副院長（医療安全管理室長）、看護部長、事務部長、各部長、師長等が集まり捜索本部会議を開き、捜索の方針を決定し、職員が病院周辺や関係箇所に捜索に行きます。同時にできるだけ速やかに警察に応援の依頼をし、場合によっては行方不明者届の提出も検討します。

これらの対応がスムーズにできるよう令和3年度から毎年「無断離院シミュレーション研修」を毎年開催し備えています。

CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修

当院では、患者さんの暴力への対応が長年課題となっており、患者さん、職員双方にとって安心、安全な対応ができることを目指し取り組んでいます。暴力への対応について、包括的な介入方法としてCVPPP（包括的暴力防止プログラム）[1]があります。CVPPPでは、「ケアとして真剣に当事者のことを助ける、Personn-centerdにその人とかかわる」ということを基本理念としています。

介入の内容は、リスクアセスメント、ディエスカレーション（言語的・非言語的介入）、ブレイクアウェイ（いっん離れる）、チームテクニクス（身体的介入）、振り返りなど一連のかかわりとなります。

令和5年度は基本理念とディエスカレーションを主に学びました。研修はCVPPPトレーナーの資格をもったスタッフが行い（CVPPPトレーナーは自施設のみ研修を行える）日頃の患者さんとのかかわりで、悪い例、良い例をロールプレイで見てもらいました。参加者からは、「日頃の自分の対応を振り返ることができた」と感想があり、今後も継続して取り組んでいきたいと思います。

＜参考文献＞1）一般社団法人日本こころの安全とケア学会監修,下里誠二編著：最新CVPPPトレーニングマニュアル　医療職による包括的暴力防止プログラムの理論と実践,中央法規,2019.

医療安全活動の取り組み
JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院

≪医療安全管理室紹介≫

メンバーは、医療安全室長（副院長）、医療安全管理者（師長）、医薬品安全管理者（薬剤部長）、放射線機器安全管理（総技師長兼放射線科科長）、医療機器安全管理者（臨床工学科科長）、看護部医療安全担当（師長）、医療安全室課長（事務）、警察官OB　計8名で構成されています。各部門の強みを生かし、院内の安全に従事しています。

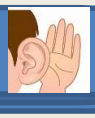
今年度の医療安全室目標「全ての部門が相互に協力し合い、組織横断的な活動によって、医療安全に関する情報を全職員で共有し、職員個々の医療安全に対する意識の向上を目指す」としています。

昨年度からの課題としている、『0レベル「ヒヤリ・ハット」事例を増やす』こと、『確認不足によるインシデントを何とかしたい』との思いで今年度は取り組んでいます。その取り組みの一部を報告します。

◆医療安全推進月間取組み

JA長野厚生連では、医療安全推進週間ではなく、**『推進月間』**として、11月に取り組みを行なっています。職員から標語を募集して、院内ポスターを作成し掲示を行う予定です。

2023年度安全推進月間標語



2023年度1位：医療秘書課　☆彡

『　言った‘‘つもり，，は事故のもと

伝える責任、聞く責任　』

※コミュニケーションや対話が重要！相手が理解できているのかを確認しましょう。

◆医療安全ラウンド

当院では、毎月1日に環境安全ラウンドと、医療安全管理室による、安全ラウンドを月に3～4部署実施しています。また、看護部が中心となり転倒・転落安全ラウンドを行い、事例検討を多職種を交えて行なっています。

院長先生を中心に環境ラウンドを実施しています。

消火栓・消火器の前に物が置かれないようにして下さい。

電子カルテを開いたままになっていました。

席を外す時には、電子カルテを閉じるか、蓋を閉めて見えない状況で席をはずすようにお願いします。

患者監視モニター
心電図送信機「電池交換」、「電波切れ」等の表示が出ていた。アラートが出されたら速やかに対応をお願いします。

◆医療安全研修会の実施

2022年度は、『スキンーテア』、『医療機関における安心・安全に電波を利用するために』『診療用放射線の安全利用について』研修会を実施しました。

今年度は、『MDRPU：医療機器関連圧迫損傷』について8月に実施しました。いずれも動画配信にて実施をしています。

2023 年度

丸子中央病院
MARUKO CENTRAL HOSPITAL

医療安全活動の取り組み

当院は、「質の高い医療、介護の提供を通じて、地域のしあわせ創りに貢献します」の理念をもとに、病気を診ることはもちろん、「人を看る・診る病院」に取り組んでいます。

丸子中央病院の医療安全管理室が・・・・

今年度、当院の医療安全管理室が大きな変革を行いました。

今まで看護師が従事してきた**医療安全管理者が、何と理学療法士が努める**ことになりました!!何と言うことでしょう・・。私が一番驚いている状況ですが、何とか医療安全管理室長の医師や看護部長・看護師長はじめ、多くの部署の方の助けを借りながら業務を遂行しております。是非、他院の医療安全管理者の皆様からも、お力添えを頂けるとありがたく存じます。どうぞよろしくお願い致します。

2022－2023年度の活動

昨年末から、『睡眠薬の変更に伴う転倒・転落防止』に向けて改善活動を進めています。夜間の転倒・転落は、見守りが少ない中で発生するため、重大事例にもつながりやすく、夜勤業務などにも大きな影響を与えます。この夜間転倒事例を少しでも減少させるために取り組みを開始しました。具体的には、ベンゾ系睡眠剤の影響を医療安全ニュースや通信で周知して、医局会でもお知らせしました。薬剤師やシステム課の協力も得ながら、第一選択薬にならないようにシステム変更を行いました。また、離床方法なども検討するなど、理学療法士が医療安全管理者となったことをより生かせるような対策を今後も検討し、今よりも件数が減少出来るように努めていきたいと思います。

医療安全に係わる委員会や会議、法定を含めた各種研修会の検討、レポート確認や分析、職員への啓発、患者対応に病棟ラウンド・・。目が回りそうですが、まずは出来ることからコツコツと！

医療安全管理者となり、様々な職種の方と今まで以上に話をする機会が増えました。
特に、看護業務は多岐に渡り、改めて大変さを痛感しております。他職種の視点から何か貢献出来れば良いな・・と思う今日この頃・・

医療安全管理者　出澤（理学療法士）